

町長

ひとくごと

83

齊藤

譲



去る十一月十三日から四日間にわたって、全国スポーツ・レクリエーション祭が千葉県で開催された。千葉県でこのような全国大会が開催されるのは、二十年程前の若潮国体以来のことである。

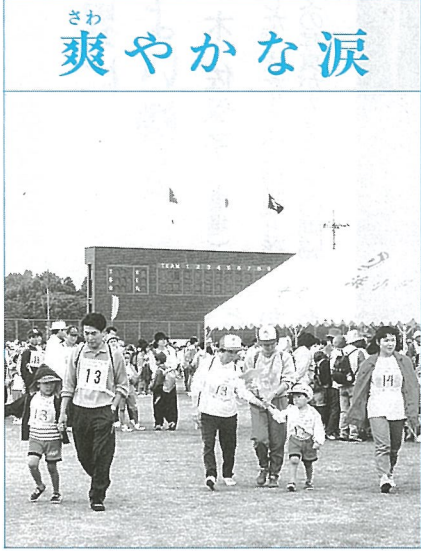
幸にも光町は、ウォークラリーの開催地となり、十四日光スポーツ公園を会場として大会を実施することとなった。初日の十三日に千葉市の中央会場で開催された開会式は、生憎の雨にたたられた。その雨は、風を伴って勢いを増し、夜半まで激しく降り続いた。

この大会は、光町がはじめて経験する全国大会であり、一年をかけてその準備にとり組んできたし、担当の職員は当日三日前から泊り込みで最後の準備にあたっていた。

▼いよいよ開催日当日の朝を迎えた。夜来の雨もあがって雲も薄くなり、この分では予定通り開催できようである。心の中に安堵感がひろがると同時に、今日まで長い期間苦勞してきた職員達の顔が目に見えた。私は心から天に向かって手を合わせた。会場へ向かえば、参加者が続々と詰めかけていた。会う人ごとに「お天気がなつてよかったですね」と声をかけられた。心配したグラウンドの状態も、職員が明け方から手を入れたお陰で完全に整い、花を並べた会場は、質素ではあるが清々しい雰囲気になりあふ

れていた。開始式がはじまる頃には、あの広い野球場が人の波で埋まってしまった。競技参加者は約一六〇〇名、一般の見学者や当日の役員を合わせると二一の光景を目のあたりにして、私は心が弾み、うれしさが胸のうちから込みあげてきた。大盛会である。

▼開始式が終り、競技が始まる頃になると、天上を覆っていた雲が千切れ、青空が顔を出した。選手は、三五五穂やかな晩秋の野山や家並の中に消えてゆき、今までの人の渦でこたえ返していた野球場は空っぽになった。喧嘩が去り、静寂が



の台地の開発を厳しい状況の中で決断し、職員と共に苦勞した思い出や、ご協力をいただいた大勢の人々の情けは、決して忘れることができない。あの頃の思い出が、走馬灯のように頭の中を過る。この大会の招致は、県の担当官の下見によって決った。もし、この公園がなければ、実現できなかったことであろう。あの時公園建設を決断してよかったとしみじみ思った。

更に、この大会に寄せられた大勢の皆さんのご支援も忘れられない。大会数日前に、日吉地区老人生きがい対策班一八二名の皆さんが、公園の清掃奉仕作業を行って、広い公園の隅々、池の中まできれいにしてくれたのである。黙々として作業を続けるその姿に、私は心打たれ、感動した。これ以上に町の誇りとするものはない。

この他にも体育関係者、警察、交通安全協会、防犯協会などの皆さんにもたいへんご協力をいただいた。これなくして大会の運営は不可能であった。これらの支援は総て表に現れない陰の力、陰徳であり、光町の真の底力でもある。

▼お昼近くになって、選手が続々と帰ってきた。どの顔にも汗が光り、満足感が浮かんでいた。銚子市の主婦だという方が、「光町は素晴らしい町です」と声をかけてくれた。「光町にこんな所があるとは知りませんでした。とても楽しく勉強になりました」と町内の人々が口を揃えて語る。アトラクションの「光ウィンド」の演奏や、「鬼来迎」の上演に参加者は酔った。人口一万二千人の小さな光町が見せる精一杯のデモンストレーションである。

表彰式で、受賞に喜ぶ者や入賞を逸した者のどの顔にも、にこやかな笑顔が輝いていた。大会は、大成功であった。

会場を後にする選手達の後姿を見送る椎名館長や伊橋係長ら職員の前には、涙が光っていた。それは美しく爽やかな涙であった。